慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	森, 征一(Mori, Seiichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2004
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.77, No.1 (2004. 1) ,p.v- vii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	川合隆男教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20040128--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

川合隆男先生は、本年三月をもって定年を迎え、慶應義塾大学法学部を退職されることになりました。先生の御退職に際し、先生からいただいた数々のご指導を想い、ここに謹んで、先生に本書を献呈し、心から感謝の意を表する次第です。

先生は、昭和三九（一九六四）年に法学部助手に就任されて以来、今日まで四〇年の永きにわたり本塾法学部において、社会学を専攻分野として研究と教育に当たられ、慶應義塾の歴史に多くの足跡を残されました。

先生は研究者として、とくに日本社会学史と社会調査史に関する一連のご研究により、この分野に新風を送り込み、わが国における社会学史全体を大きく書き換える契機を与えたことで高い評価を受けられました。

先生の学問は、先人たちの知的遺産の批判的継承を通して社会学の新たな地平を拓くという使命感に支えられていたように思われます。私たちの現在は、折り重なるように倒れていった過去の累々たる屍の上にありますが、先生は「歴史の激動のなかに刻み込まれた多くの業績や足跡が埋もれまた忘れ去られていくこと」があってはならないという思いから、それらに命を与え、過去を生の軌跡として甦らせたのです。先生が多くの著書・論文を書かれる一方で、それに匹敵する復刻編集の仕事をされたのは、このためです。先生にとって研究の仕事と復刻編集の仕事とは表裏一体となっているのです。

先生は「忘れられていた歴史」に光をあてるべく、「学問運動としての社会学の組織化と制度化」という独自の研究視点を導入し、社会学という学問運動を日本近代史のなかに位置づけ、これまで誰もが見ることのできなかった新しい社会学史を見事に描き出されました。

昨年、先生はこれまでのご研究の集大成ともいうべき労作『近代日本社会学の展開』を中心とした日本社会学史の業績を認められ、慶應義塾の最高の栄誉とされる「福澤賞」を受けられました。「福澤賞」は「特に学問水準の向上に寄与する研究業績を挙げた」慶應義塾の研究者に授与されるものですが、先生のご研究は日本社会学史に革新をもたらす画期的な業績であると聞いております。

先生の社会学史は、さらに社会学という学問の発展のために誠実に生きながら「忘れられていた人々」を正当に評価して次の世代に伝えようとする人物史へと展開しました。その代表作ともいうべきものが、共編著作『近代日本社会学者小伝—書誌的考察』ですが、感嘆させられるのは、先生の人物への執着です。先生の人物研究の根底にあるものは、学びを求める者への敬愛の念のように思います。それは人間愛です。私はそれを先生からいただいた最新作『戸田貞三』を読んで感じました。

先生は慶應義塾が誇るべき優れた社会学者であることは、これまで公刊された多くの著書・論文そのものが物語っておりますが、それはまた、先生が日本社会学史学会理事、三田社会学会会長などを歴任され、社会学界を指導されておられることからも歴然であります。

先生は優れた教育者でもあり、学生の教育・指導に情熱を傾けられました。先生の薫陶を受けた者は、社会の多分野において第一線で活躍しております。

また先生は、学内行政の面でも学部長補佐をはじめさまざまな要職に就かれ、学部運営にご尽力され、法学部の充実・発展に貢献なさいました。私事でいえば、学部長として、教授会でどれほど先生に助けられたか分かり

ません。穏やかな先生の言葉には皆の心を和ませる力がありました。先生の温厚で誠実な人柄のためでしょうか。どんなに紛糾した場面でも、先生の一言で教授会の張りつめた空気は一変してしまうのです。

先生は研究・教育一筋に歩んでこられた学究の人でした。先生は、上記『近代日本社会学の展開』のなかで、学者の道について次のように説かれました。「さまざまな歴史的流れを次の世代や時代・歴史にどのように橋渡しをして、やがて大地やひとびとの生活を潤す流れをどのように築いていくのか」この仕事を担うのが学者であると。私たち後輩は、先生のこの言葉を深く心に受け止め、法学部の学問を発展させるために努力したいと思います。

先生のご退職と同時に、慶應義塾は司法改革の一環として構想されてきた法科大学院を開校させますが、法学部はそれと同時に学部改革に取り組むことになります。二一世紀における学部教育はいかにあるべきか。この難問に解答を与えなければならないこの時期に、先生が法学部を去って行かれますことは、誠に残念の一語につきますが、今後も、いろいろとご指導いただけるものと確信いたしております。

最後に、先生のますますのご健勝とご活躍を同僚一同とともに心より祈念申し上げます。

二〇〇四年一月

法学部長　森　征一